

(別紙 2 - 1)

令和 6 年 12 月 12 日

二本松市議会議長 様

会 派 名 みらいの風

代表者名 鈴木 一弘



視 察 ・ 研 修 報 告 書

当会派において、下記により視察（研修）を（に）実施（参加）しましたので報告いたします。

記

1 期 間 令和 6 年 11 月 13 日（ 水 ）～ 11 月 14 日（ 木 ）

2 参加者 ① 鈴木一弘 ② 佐藤源市

③ 斎藤 徹 ④ 佐藤運喜

⑤ 武藤清志 ⑥

3 視察（開催）地及び視察（研修）内容

別紙のとおり



(別紙 2 - 2)

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 みらいの風
氏 名 鈴木一弘

○ 月 日 令和 6 年 11 月 13 日 (～ 14 日)

○ 場 所 函館市地域交流まちづくりセンター

○ 内 容 施設の設置目的、独自事業の成果と課題
及び移住者、定住者に対するサポート等について

○ 視察・研修の感想

建物外観は洋風を基調とした大正 12 年に建築された丸井今井函館支店百貨店
を改装してセンターとして使用しているが、大正から昭和を感じるモダンな作り
となっている。

内部も、既存の歴史的価値のある手動式エレベーターを機能そのままに動態保存
され、大理石張りの内装もきれいの利用されている

市民の親しみをそのままに懐かしさと歴史を後世に残す交流センターとしては、
発想的にも素晴らしいものであると感じた。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

情報発信、市民交流、市民活動支援として利用され、特に活動支援としての
フロアーを簡易な間仕切りで 1 坪ほどに仕切り市内の各種団体の事務スペース
として貸し出している取り組みは、参考としたいものである。その取り組みで
市民、企業の活動が盛んになり、市内の活性化につながるものと思う。

市有施設を多数抱える本市としては、建築物の再利用は参考にされたい。
市民ニーズの変化から、今までの施設を今までの利用とは大きく異なる利用も
視野に入れながら、取り組んでみたいと考えるものである。

(別紙 2 - 2)

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 みらいの風

氏 名 鈴木 一弘

○ 月 日 令和 5 年 11 月 14 日 (～ 日)

○ 場 所 函館市 はこだてみらい館

○ 内 容 交流施設の設置状況について

○ 視察・研修の感想

JR 函館駅前の好立地にあり、先端技術にこだわった施設である。

世代を超えて「発見、驚き、感動」を体験できるとのことであるが、ゲーム感覚満載で、小中学生向けの施設だろうかと思えたが、観光客が来るとの事であったシアターは、観光客向けには最高で初日に来ていれば、あちこち足を運びたくなるような、270 度ほどのパノラマで函館の観光地を案内する。

テレビゲームの操作機のように自分で操作をしていきたい場所を確認する。

全ての機材においてタッチパネルのような物など、ゲーム感にあふれている。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

本市にも、城報館がありシアターもあるが参考にしたい。

市内回遊を目標とするなら、立地を考えるべきであると思うが、JR 函館駅前でこの施設があれば、観光客にはとても有効であろうと思う。

この様な施設は、インターの出口や JR の出口に設置されるのが望ましいのであろう。

指定管理の在り方とその内容も考えなければいけない。

指定管理には、指定管理者に企業が含まれれば企業アピールになるような方法を盛り込んでもらいながら運営されれば、より集客につながると思う。

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 みらいの風
氏 名 佐藤 源市

○ 月 日 6 年 11 月 13 日 (～14 日)

○ 場 所 函館市地域交流まちづくりセンター

○ 内 容 施設の設置目的、独自事業の成果と課題
及び移住者・定住者に対するサポート等について

○ 視察・研修の感想

施設は、今から100年前に建設され、百貨店を再利用して建物があり、
市が昭和49年に買い取り、平成元年に市の景観/形成指定建築物に
指定し現在の函館市地域交流センターとして活用されている。
目的として情報発信、市民交流、市民活動支援の3つの機能もある。
指定管理事業として5年間の期間とし、NPOサポートはここでグループが
管理し、市民活動支援、移住・定住者の誘致推進、移住後の暮らし
サポートで、一貫して文芸中心、NPOや市民の活動の場の提供への
取り組みが、素晴らしいものでありました。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

古い建物の再利用のあり方、又 NPO法人が、地域に根ざして
活動の中心があり、それにより、多くの市民団体や有識者が
施設を活用し、市民の振興につながり、地域観光/経済に
大きな効果が出ている。当年においても指定管理において
目的を明確にして取り組んでいると思われる。

視察研修報告書

会 派 みずの風
氏 名 佐藤 清市

○ 月 日 2020 年 11 月 14 日 (~ 14 日)

○ 場 所 はこたて 未来館

○ 内 容 中心市街地、交流施設の現状について

○ 視察・研修の感想

○ 視察・研修の感想
指定管理施設であり、5年間の契約期間にて実施され今年で8年目を経過している。指定管理においては、3社にて運営がなされ、床面積 300坪の広さがあり、2つは常時外へ外にて施設管理され、残部は月1回の公休日、祭日とされ、内容の施設の借出し、スポーツが中心であり、学校授業等に多く利用され 9月~10月にかけてあるスポーツ館の7割は観光客、外国人7割で台湾、欧米人が多く、一般客は約600人である。4所にはキッズプラザあり、子供達の遊び場である。国内外の観光客の多いは、交通ルートの整備の確立がなされてきたためである。地域と外国人との交流をはかりたい施設であった。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。
 はじめて本奉迎館にて、奉迎館の取り組み、交通ルートの整備等、
 在士れてあり、訪客の中一階階下ありと思われ、又、奉迎館の
 接客態度も良好であり、利用客は一層の印象を与えている。
 本館、おいて各施設等、接客の重要性を新ためて認識させられた。

行政視察報告書

委員名 齋藤 徹

○ 視察日 令和 6 年 11 月 13 日

○ 視察内容 函館市地域交流まちづくりセンターについて

○ 視察の感想

函館市は中核都市であり民間会社調べで魅力度ナンバーワンに選ばれた市であり早くから国際貿易港として開かれ長い歴史と文化を有する街である。

函館市地域交流まちづくりセンターは、大正12年の建物を使用しており歴史ある建築物である。事業内容は市民活動支援事業・社会参加促進事業・移住サポートセンター・観光情報や地域情報の提供であり、市民活動支援に特に力を入れていると感じた。

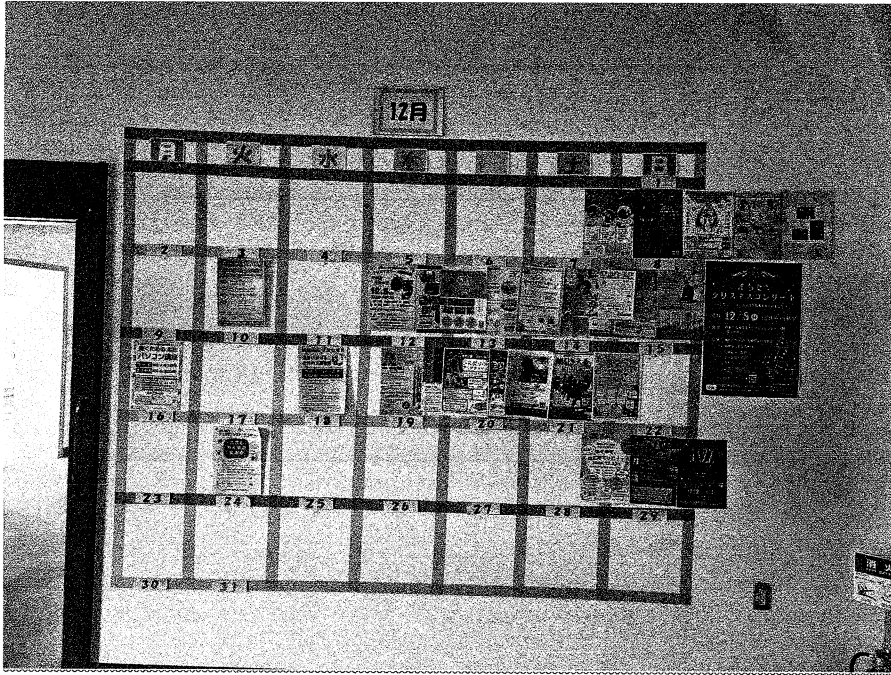
○ 視察の成果、市政への反映等

市民活動が盛んな為、市内の様々な団体に事務所として貸しているので、この施設だけで様々な情報を集めることができる。このような取組は、本市においても必要と考えるがスペースの確保が課題である。

有料でコピーや横断幕の印刷サービスを安価で行っており、市民活動を支援していて便利である。

移住サポートセンターを運営しており函館市役所と連携している。本市においても民間と共同で取組む必要がある。

施設の壁のチラシによる月間予定表



運営団体とは別の NPO による就労者支援のショップ



行政視察報告書

委員名 齋藤 徹

○ 視察日 令和 6 年 11 月 14 日

○ 視察内容 函館市 はこだてみらい館について

○ 視察の感想

はこだてみらい館は先端技術を駆使した体験型のコミュニケーション施設で J R 函館駅前にあり、プログラム体験や様々なデジタルコンテンツに触れることができる。未就学児は無料で遊びの場としての側面もある。また近年は台湾からの来場者が多く、観光地としても喜ばれている。

○ 視察の成果、市政への反映等

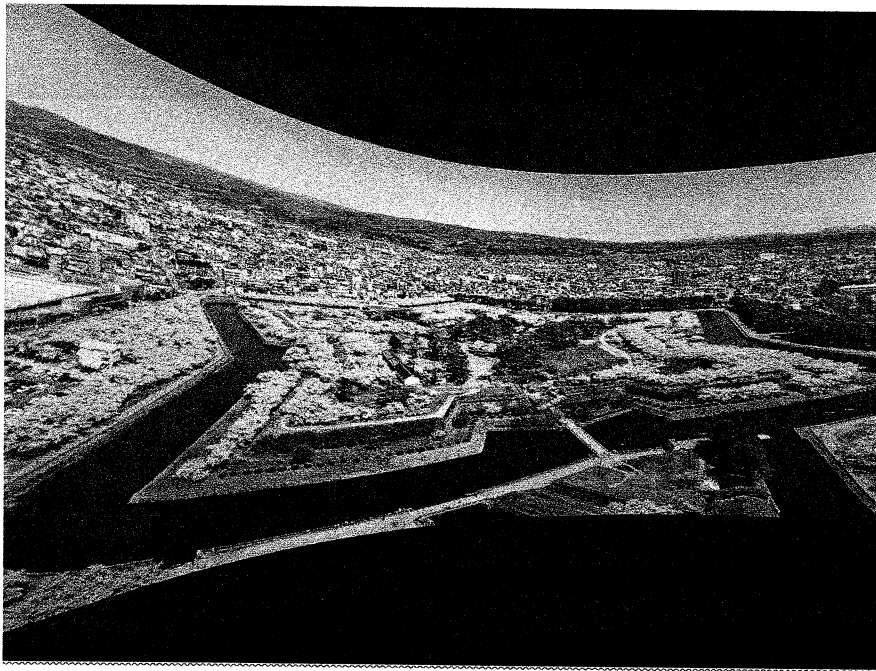
大画面で体験型のゲーム等ができる為、リピーターの確保にもつながっている。また、コワーキングスペース等にも利用でき便利である。本市においても市有施設の使いやすさの検討が必要である。

素晴らしい施設なので更なる PR を行えば来館者増加に繋がると考えるが、本市においても二本松城報館の PR 方法を検討すべきである。

体 感 ゲ ー ム が で き る ス ク リ ー ン



観光案内が表示される3Dスクリーン（ゲーム機コントローラーで操作可）



(別紙 2 - 2)

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 みらいの風

氏 名 佐藤 運喜

○ 月 日 6 年 1 1 月 1 3 日 (~ 1 3 日)

○ 場 所 函館市地域交流まちづくりセンター

○ 内 容 施設の設置目的・独自事業の成果と課題 及び
移住者、定住者に対するサポート等について

○ 視察・研修の感想

地下 1 階、地上 5 階延床面積 7,418 平方メートル鉄筋コンクリート造東北以北
最古のエレベーターと築約 100 年の高級洋風建築物（旧デパート）を市が買取り、
昭和 44 年より市分庁舎として利用していた。改修工事等を重ね現在、移住、定住
誘致促進のための「函館市移住サポートセンター」を N P O サポートはこだてへ
委託し利活用をはかっている。その目的として大きく 3 つあり情報発信、市民交流
市民活動の支援で成果をあげている。指定管理者でグループとしての管理運営、
大きな洋館デパート 丸ごと集会施設のような異次元空間の見学に感動した。
はこだて市民の活発さに驚き、また大学が 4 つもあるので学生交流も盛んで
大学のサークル的な自由闊達なノリで、集まりやすい気質、全市的に市民活動が
活発である事など、有意義な話を伺ってきた。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

これからの公共施設や古い歴史的価値のある建物等の再利用、再編には十分、意を
用いて行うことなど再認識、再考を思った研修であった。

本市においても地域市民活動のあり方、方向性、行政サービスの手法を官民の
バランス、あらゆる方法で市の活性化の一助に貢献したい。特に指定管理者
関係は、常に高い目的意識を持って市政、市民のために尽力されることを願う。

(別紙 2 - 2)

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 みらいの風

氏 名 佐藤 運喜

○ 月 日 6 年 1 1 月 1 4 日 (~ 1 4 日)

○ 場 所 はこだてみらい館

○ 内 容 中心市街地・交流施設の現状について

○ 視察・研修の感想

交差点の角にあるのはこだてみらい館は、子供のための 4 F 建ての未来型施設であつた。1 階の延床面積、広さは 300 坪とゆったりしており市の指定管理 8 年のうち 5 年目である。入場者数は 5 年目が 5,900 人 6 年目では 6,300 人であつた。スタッフ (社員) は 7 ~ 9 人で残り 1 5 名ほどのアルバイトで年間運営している。稼働日数は月 1 休み、年末年始数日休む程度で主に格好、授業に使用されている。年間運営の中で 9 ~ 1 0 月がピークで全体の 7 割ほどが、観光客で占めている。インバウンドの影響で外国人、特に台湾人、欧米人が多い。地元利用は案外少なく 1 日、1 0 人ほどで夏休みは総数で今年の場合 1,000 人ほどあつた。

施設ビル内は AI ロボットや近代映像と音声の目を見張る施設機材となっており地元の地形、歴史全てがゲーム感覚で子供に理解しやすいように設定されていた。

指定管理者 3 社で運営しているので目を見張るものがあつた。子供たちは 1 日遊んでも飽きない素晴らしい施設であつた。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

市の人口と財政能力等も異なるが、共通して言えるのは、指定管理者のやる気と熱量と豊富なアイデアであると思った。また歴史と伝統にプラスされる若い力が北海道のこの地にマッチして素晴らしい施設を作り出したのだろう。

当市においても、歴史や文化に火をつけて観光都市の端くれにつかまり大きく飛躍することができると確信したい。官民プラス何かを見つけて・・・

(別紙 2 - 2)

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 みらいの風

氏 名 武 藤 清 志

○ 月 日 令和 6 年 1 1 月 1 3 日

○ 場 所 北海道 函館市地域交流まちづくりセンター

○ 内 容

1	施設の設置目的
2	NPOへの委託料を含めた収支
3	施設独自事業の成果と課題
4	市民の補助金支援等を含めた市政との関わり
5	移住者・定住者に対するサポート

○ 視察・研修の感想

函館市地域交流まちづくりセンターは、1923年に建築された築100年超の歴史ある建築物である。後の丸井百貨店函館支店の前身で、1930年増築された際に設けられた東北以北に現存する最古のエレベーターは90年以上が過ぎた現在も稼働し乗ることができた。

1 施設の設置目的については、市の「景観形成指定建築物等」に指定後「外観の保全」「安全性の確保」を図るための改修を行い、新たな活用を通じて賑わいと潤いを創出するため、情報発信・市民交流・市民活動支援を目的に平成19年に再生された。

2 NPOへの委託料を含めた収支は、8割程を市の指定管理委託料で賄われ他各種使用料収入である。

3 施設独自事業の成果と課題については、喫茶の運営委託等を委託で行っている他は、市民活動支援事業として講座開催・情報収集発信・移住サポートセンター等に取り組んでいる。

4 市民の補助金支援等を含めた市政との関わりは、指定管理委託料により運営している。センター運営を通じて多面的に市政貢献をしている。

5 移住者・定住者に対するサポートについては、業務委託により平成24年からセンターが受託し移住の段階から移住後の暮らしサポートまで、一貫体制で対応している。センター内に「移住者サポートデスク」が設置されている。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

函館市は1859年、横浜・長崎とともに日本最初の国際貿易港として開かれて以来海外との交流が始まり、近代日本の幕開けの段階から外国文化に触れ、新進的な国際感覚が息づく長い歴史と文化を感じられた。函館空港には近隣の外国航路直行便も運航されており、多くの外国観光客の姿に触れることができた。

本市の市民交流センター運営においても指定管理制度により運用されているが、活性度の面では、受け身の印象が拭えない。本市の拠点施設として今後さらなる創意工夫を考慮して可能性の研究を行いたいと考える。

(別紙 2 - 2)

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 みらいの風

氏 名 武 藤 清 志

○ 月 日 令和 6 年 1 1 月 1 4 日

○ 場 所 北海道 はこだてみらい館

○ 内 容 施設の施設状況について

○ 視察・研修の感想

函館市が市民や観光客に対して先端的な技術活用を提供し創意工夫を生かした体験および交流の場を提供することにより、中心市街地のにぎわい創出を図るために今年 10 月函館駅前にオープンした施設である。館内には国内最大級の LED ビジョンなど設置されており、運営は指定管理者として「はこだてみらいプロジェクト運営グループ」が受託している。運営グループは「こどもクラブ」「NA アーバンデベロップメント」「Sony P C L」3 社による共同体である。先端技術を活用して、「発見、驚き、感動！」に満ちたコンテンツ体験ができた。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

はこだてみらい館についても、本市の市民交流センターを思い返しながらの研修ができた。まちづくりセンターとは質の異なる未来志向の先端的な技術を駆使し、AI を内蔵するロボット犬と会話するなど貴重な経験ができた。本市の市政運営においても発想力が問われると実感した。